生産者通信
NPO法人
米ニケーションセンター
定価　100円（送料込）

2年目の山田錦に厳しい現実　収量・品質ともに前年を大きく下回る

荒れる異常気象に対応する稲作確立に見直し必至

今年の8月後半からの低温・長雨・日照不足の影響で、稲刈り・出荷が大幅に遅れ、11月16日現在で山田錦の農産物検査が終了していません。昨年度は11月1週目には全体の検査結果が判明をしていたので、10日以上遅れています。

新潟県山田錦協議会の目標数量の1万俵には、中米、篩下米を加えても届かず、7千俵をようやく超える厳しいものでした。

8月6日の現地講習会では豊作型を推移していたので、今後は天候の激変を予想しながらフレキシブルに対応できる栽培・施肥体系への検討が必要になると思います。

栽培会の皆様には、栽培カードの記入をお願いいたします。

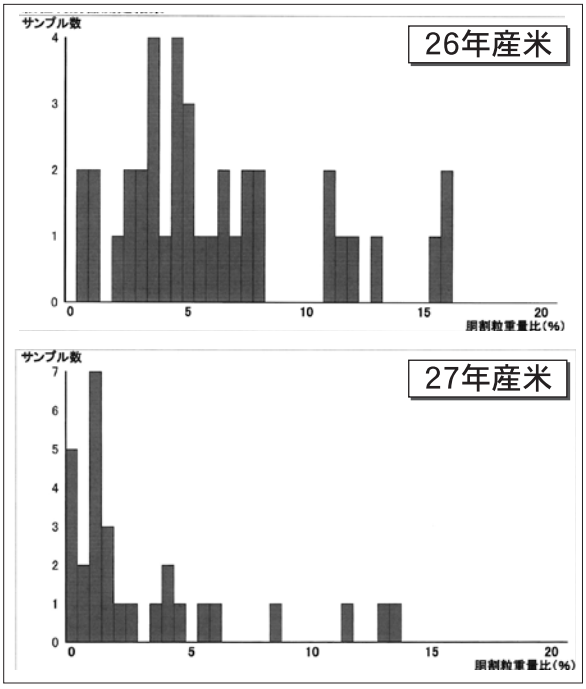
皆様のデータを分析して次年度に生かしたいと思います。

27年産米の特徴

全体的に
① 青未熟
② 腹白
③ 縦筋の深い粒
が多く見受けられました。

また、胴割粒に関しては昨年より少なく、データで見ても差異が明らかです。（下表）

◇ 胴割粒比較（重量比）



	26年産米	27年産米
厚み	2.08	2.06
長さ	5.42	5.4
幅	3.14	3.11
胴割	7.15	3.45

予想された五百万石過剰　価格が大暴落

酒米は酒蔵との契約栽培で、もち米の大幅な価格の変動がないことで、生産者と蔵元にとって比較的安定していました。

しかし、近年の食用米の低米価の影響で、蔵元やJAとの契約をせずにフリーで作付する生産者が急増し、過剰作付となっています。

加えて、早生の五百万石等の品種は豊作で、全国的に酒米が供給過剰となっています。

新潟県酒造組合では余剰となっている五百万石を、こしいぶき価格（参考：平成26年一等・11,204円／60kg）と驚きの価格で販売しています。

酒米の絶対的なルールは、作付前に蔵元（実需者）との契約栽培です。

目先の米価のみで栽培すると酒米生産者・蔵元全体に迷惑をかけることになります。

コメ消費量1割減少に

9月分の1人当たり

米穀機構は先ごろ、9月分の1人1カ月当たり精米消費量を3989㌘と発表した。前年同月より506㌘（11%）少なく、10カ月連続の減少となった。

このうち家庭内消費量は2788㌘で、前年より395㌘（12%）落ち込み、6カ月連続で減っている。中食は前年を92㌘（12%）下回る669㌘となり、3カ月連続で減少。外食は531㌘となり、前年を20㌘（4%）下回って5カ月連続の減少となった。

家庭内での月末在庫量（買い置き）は6・2㌔で、前年同月比600㌘（9%）減。今年前月との比較では変わらず。

2015年11月6日　商経アドバイス

祝　フード・アクション・ニッポン2015

新潟・山田錦協議会

商品部門 農林水産分野で
優秀賞を受賞しました